

免疫細胞が慢性腎臓病の進行に与える影響に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2026年2月4日 ～ 2030年3月31日

〔研究課題〕

腎組織における腎間質B細胞浸潤と3次リンパ組織新生に関する臨床病理学的解析

〔研究目的〕

慢性腎臓病は、国民の8人に1人が罹る現代の国民病といわれ、動脈硬化に代表されるような心血管系の異常、免疫機能の低下、その他多くの合併症を引き起こすことが知られています。健康寿命をいかに保つかという点において、腎機能の維持は重要な課題なのです。近年、悪性腫瘍や急性感染症などによって機能が低下した臓器では、三次リンパ組織とよばれる免疫細胞の集合体が形成され、正常組織の修復を阻害していることが明らかになりました。慢性腎臓病にも共通した所見であり、特に高齢患者様ではその形成が顕著であることが示唆されています。この度、原因疾患や年齢など様々な要因が絡む慢性腎臓病において、この三次リンパ組織の存在が腎機能にどのような影響を与えるのか探るべく、調査を行うことといたしました。

〔研究意義〕

動物実験レベルでは、三次リンパ組織の機能や存在意義が少しずつ明らかになってきました。

ヒトにおいて、三次リンパ組織と慢性腎臓病のステージとの関連が明らかになれば、新たな創薬ターゲットとして期待できる可能性があります。

〔対象・研究方法〕

2015年1月1日から2025年12月31日までに、

当大学附属病院腎臓内科に入院した患者様であり、以下の基準を満たすものといたします。

疾患を問わず何らかの理由で腎生検を実施し、診断時年齢16歳以上の患者様。

免疫染色可能な腎生検検体が存在している患者様。

なお、除外基準として、腎生検前に免疫抑制治療が実施されているもの、腎生検組織検体が解析できないもの、臨床情報が不十分なものといたしました。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院 内科

〔個人情報の取り扱い〕調査項目・検体はすべて既存のものであり、データ上すべての患者様は匿名化され、名前・住所・電話番号なおプライバシーに関する情報が外部に漏れることは一切なく、何らかの負担が生じることもありません。また一人ひとりの病気の状況を発信することはありません。解析後のデータは安全にかつ完全に破棄され対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用を

ご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：医学部内科学講座	教授 柴田茂
研究分担者：医学部生化学講座	教授 安達三美
医療共通教育研究センター	教授 藤垣嘉秀
医学部内科学講座	病院教授 田村好古
医学部生化学講座	講師 奥平准之
医学部生化学講座	助手 村川允崇
住所：東京都板橋区加賀 2-11-1	TEL：03-3964-1211（代表）